

地域密着型サービス自己評価票

- 。 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 。 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20年 8月 31日
事業所名	グループホームはるすのお家 尾張旭
ユニット名	燦々(1階)
事業所番号	2374500607
記入者名	職名 管理者 氏名 福本 弥生
連絡先電話番号	0561-54-5508

自 己 評 価 票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○ 近隣のスーパー、飲食店に出向き顔なじみになっている。自治会行事にも積極的に参加している。○ 地域で暮らしていることを念頭に理念にもあげられている		○ 理念をリビングに掲示し入居者の方にもみてもらえる配慮をしている
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○ 月に1回～2回、ミーティングで声に出して確認している。○ ミーティング時に復唱する。○ 復唱することで1ヶ月に1回は意識付け、実践するように努めている。また、ミーティングの際には理念に沿った支援について話を管理者がしている。	○	○ 今後も、継続していき新しく入ったスタッフにも理解し、全員で共有していきたい。○ 理念を復唱することで意識付けをするとともに、介護計画や日頃の会話の中にも何が大切かに触れるようにしており、職員それぞれの意識へと働きかけている。職員それぞれは理念にあった支援が出来ている
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○ 運営推進会議や、月1回後家族に送るはるす通信で伝えている。○ 会社の理念は玄関に掲示され、事業所独自の理念は入居者の方がみやすいリビングに掲示されている。		○ 地域の行事に参加することや、日頃から外へ出向くことで理解を深めてもらえるよう取り組んでいる。○ 家族の方には日頃の会話や介護計画を通して理念を伝えている。
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○ ご近所の方より、手作りの野菜を頂いたり、はるすの行事で作った料理をおすそ分けしたりしている。○ あいさつを交わしたり、畑のものを頂いたりお返しをしたりと付き合いが出来ている。		○ スクールガードにも参加し、地元の子供たちにも声をかけている。○ 入社より、近隣で逢う方にはこちらから挨拶をするように指導を受け、職員全体（入居者も含め）で実施している。○ 独居の高齢者が近隣にいて、行事などのときは食事を持っていくなどしている
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○ 常に地域の行事に参加している。地域の方からも声がかけてもらえとてもいい交流をしている。○ 自治会は公園の花壇を作らせて頂、行事等にも参加の声をかけてもらえる。○ 校区の運動会や夏祭りに参加する中で、「はるすの人」として受け止められるようになり、行事参加が自然に出来るようになっている。		○ 市が開催している行事にも参加している。○ 回覧板にある、地域の『防犯パトロール』『公園の掃除』などの事業にも率先して参加し、対高齢者に特化せず交流を実践している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○現在の取り組みとして、防災について地域の役に立つ事を考えている。○高齢者ではないが、スクールガード等に出向いている。○自治会や子ども会の方がいろいろな行事にあわせ声をかけて下さる。	○	○災害に備え、はるす利用者の方地域の方にも日常用品を提供できるように備品をそろえている段階。○推進会議を通して、事業所としてどうあるべきかを話し合っている。○スクールガードや子供110番の実施、リサイクルマーケットへの参加、広報で回ってくる事業の参加など、継続的に実施している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	○評価後は全員の意見をまとめ、ミーティング時に発表し、皆で相談している(資料も作成)○他にも職員の自己評価制度が取り入れられている。○評価を通して、明確な気づきへとつなげることが出来、日頃の仕事の中で反省し改善に努めている。		○前回の外部評価の後には家族に対し説明の場を設け、職員に対してはミーティング等で説明をしている。○改善も兼ね、現状の継続も念頭に入しながら話し合いの場を定期的に持っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○地域の方やご家族からの意見を取り入れ、毎回の会議の時に話し合ったり、報告しあい向上に努めている。○ご家族へ報告し、意見も伺っている。○日常生活の報告を合わせ、現状の課題なども話し合う場になっている。	○	○全員のご家族からの意見がなかなか聞かれず、質問形態のアンケートを作成すると、意見が聞かれるかも知れないので、考慮していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○市内の事業所会議などにも管理者が参加している。また、市の催しなども参加している。○利用者の認定の申請などは利用者と窓口に出向いている。○わからないことは市役所に確認し、家族からの相談や、困難事項など相談できる関係が出来ている。		○いろいろな申請を入居者と市役所へ出向くことで、市役所の窓口の方に認知症高齢者を知っていただく機会になる。また、日頃から連携を心がけている為常に相談に乗ってもらえる関係を構築しつつあると思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○必要と思われるご家族には話をし、市の職員にも相談したり意見を頂いている		○管理者においては学ぶ機会をもっている。また、一部職員などは研修にて学ぶ機会があり報告書などを通して職員が閲覧することは可能
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○「虐待」の勉強会を企画している。ひやりはっと等でも問題としてあげ、どんなことが虐待につながるか話し合っている。○勉強会での学びを活かし、日頃の支援につなげている。	○	○「安全」のための言葉掛けが、時には利用者にとって『虐待』になることを自覚していく必要がある。○年に1度は勉強会を開催している。また、どんなことが虐待になるのかを話している。○新聞やニュースで虐待の記事が掲載されたときには必ず職員に伝えている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		○入居時、退去時には話し合いの機会を持っている。その中で家族の不安や疑問を解消するように働きかけている。また、記録等を自由に読んでもらうことが出来ることを伝え、入居後の安心を計っている
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		○細かい意見などが多いため、書式としては残していないが、ミーティングなどの席で話し合ったり、記録に残している。第三者機関は設けていない
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている		○毎月、ハルス通信、生活状況を伝えるサマリー、金銭出納帳を送付。職員の写真が各フロアの廊下に掲示しており、自由に閲覧することが出来る。○体調不良、そこからの状況などをこまめに電話して情報の共有に努めている
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		○今年度に入り、新しく意見箱を設けた。現在は1件の意見が上がっているが、会社にも報告をし今後の対応に向けていくようになっている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		○年に2度の面談にて話し合う機会を設けている。ミーティングなどでも意見を聞く機会を設けている。この評価シート上でも意見の採取ができる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		○行事や外出に併せて勤務を組んだり、必要に応じて計画作成担当者や管理者がリビングをフォローするようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	○1階、2階を利用者と一緒にスタッフも顔を出し1階、2階全員のスタッフが常に各階利用者に声をかけている。そうする事で、いどうがあってもダメージは少ない。○職員の入れ替わりは少なく、利用者さんに影響はないと思われる		○異動に対するリスクは前もって職員に打ち出し、何に配慮をするべきかは事前に伝えることで、ダメージなどが無いようにしている。また、日ごろから職員が1階、2階と顔を出すようにしており、利用者との面識を作っている。
5.人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○毎月1回～2回の定期的な勉強会施行。時にはミーティングの際に行う事もある。○勉強会や研修に参加した報告会がある。○事業所内での勉強会や研修、外部研修。又は、外部研修の発表をしている。	○	○どうしても勉強会に参加できなかった人には、参加して人から声をかけていき、勉強会で学んだ事を伝えていきたい○入社して1ヶ月は段階をおって研修が受けられるようにしている。○事務所には研修会にチラシやポスターを掲示している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○他施設へスタッフ、利用者共に出掛けたり、管理者が代表で勉強会に出掛けたり、常に相互訪問を意識している。○近くのグループホームの方が来たり、こちらも出向いている。		○1年に1度他施設研修の機会を設けている。また、法人内でのスタッフの交換研修もしている。勉強会や行事を通してた施設との関りも現状では出来ている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○年に2回、個人面談がある。その他、日常的にも声をかけてもらえる。(管理者より)○それぞれに合わせた勤務時間を組んでいる。○休憩時間が確保されており、その人にあった働き方が出来る。		○休憩時間の確保をし、勉強会や飲み会を通しスタッフのストレス発散の場を作るようにしている。また、年に2度の面談では職員の課題なども耳を傾けるようにしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○個々に合わせた勤務時間を考え、取り組んでいる。互いに大変にならない程度に職員での協力もしている。○有給休暇を管理者から声をかけてもらうことができ、必要に応じてとっている。		○年に2度の自己評価で自分自身の課題や目標を設定し、向上心につなげている。勉強会などは自由参加だが資格取得を目指す職員も増えており、向上心はあると思われる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○ 入所し数日間の間に、アセスメントし、関わりを築いている。些細な事も聞き逃さずにカルテに記載する。		○ 見学の段階で話を伺い、いろいろな状況についての説明を行う。本人との面談も管理者、フロアー長など２階に分けて行ったり、現状のサービス利用の状況を聞くなどすることで多面的な情報収集に努めている
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○ 常に現状をうかがい、声をかけて対応している。		○ 入居までに必ず数回の面談があるため家族の状況なども理解しやすい。お試し利用なども推進している。ご家族には入居時にセンター方式の記入もお願いし、家族と本人のかかわりや家族の思いなども把握して利用を進めることが出来る
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○ 入所前からの情報を元に、まず１ヶ月間のプラン作成し、１ヶ月経過した時に全員（スタッフ）で、話あい、本人が必要としているサービスを作成。		○ 入居できるか出来ないかも兼ね合わせ、相談の時点で他施設や他のサービスを進めることもある。また、相談に来た方には「いつでも何かあったらご連絡ください」と伝え、サービス利用につながらずとも、後に相談を受けることもある。
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○ 得意、不得意、趣味を聞き徐々に慣れていただけるように工夫し支援している。○ お試し入所、お試しデイ利用などを実践している。○ これまで利用していたサービス事業者からの話を伺うなど努力している。		○ 入居後に、これまで利用していたサービス事業所の方が顔をみせてくださることが多く、入居者の方も安心される方が多い。また、昼間のみのお試しや泊りのお試しも実施している。
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○ 様々な行事やその時々料理を利用者に教えてもらったりしている。○ 食事を作りながら教えてもらう機会がある。○ 一緒にすごしながら学んだり支えあっている。○ 出かけたり、生活する中で家にいるような気持ちになっていただけるようにコミュニケーションをとっている。○ 何をするときも出来るだけ一緒に行うことを心がけている。		○ とともに出来ることを共感し、喜びあるようにしている。○ その人の今を受け止め、互いに支えあえる関係を目指している。介護計画も本人の視点を重視しており、そこからの気づきや学びを元に支援に活かしている。時に入居者の方が職員の相談に乗ったりいろいろな形で支援をしてくれている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	○ 施設内での生活を伝え、ご家族と共に喜んだり、相談しあっていく関係を気付いている。○ 日頃から面会に来ていただけるように手紙を送り、状況を細かく伝えている。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	○ 個々の関係にあわせて、互いの思いを理解しよりよい関係外築いていけるよう支援している。○ ご家族がこまめに面会に来られたり、一緒に外出したりする関係を気づいている。○ 家族関係についてもミーティングなどで説明があり、情報の共有が出来る。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○ プランに取り入れなじみの場所への外出施行。○ 思い出の場所に行き、思い出の食べ物を食べたりと支援をしている。○ 地域の行事に参加したり、なじみの場所へ出かけたりしている。○ 配偶者のお通夜に参列するなどの支援をしている。○ 家族や友人が訪れやすい雰囲気作りに努めている。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	○ 利用者さんのテーブルー夜外出時のメンバー等にも気を使っている。○ 利用者同士声を掛け合い、係わり合い、支えあえるように努めている。○ 職員も交わりながら協力し生活している。○ 利用者同士のかかわりも常に見守るように努めている。座る場氏世なども配慮している。		○ お料理の下ごしらえなどは皆さんで手分けして手伝って頂いている。
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	○ 体調不良により入院している方のお見舞いに行ったり等、継続的な関わりを行っている。○ 病院に入院をしたかたのお見舞いに行ったり、ご家族の相談に乗るなどのかわりを管理者はしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○ アセスメントより、本人の目線でプランを作成している。○利用者本意の支援を心がけている。本人本位を検討している○安全な限り、今までの暮らし方を大切に支援できるように努めている。○発した言葉も介護記録に残す	
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○ なじみの場所へ出かけたり、話を伺い生活支援をしている。○入居前のサービス事業者が入居後も面会に来てくれたり、関係の継続もされている。その都度、情報を伺うことも出来る。○生活歴などもミーティングで話し合い、状況の共有に努めている。	
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○ 生活リズムを把握するためにはスタッフ間で情報を共有し、個別の生活リズムをできるだけ崩さないように努めている。○出来ることと出来ないことを感じ取って生活支援を取り組んでいる。○現状のその人の体調等を観察し、職員同士で声を掛け合い把握している。○介護スタッフ全員でモニタリングやアセスメントを行うことで、総合的に現状を把握しようとしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	○ 毎月、決められた人のプランをスタッフ全員で見直し、今後の支援を話し合っている。その全てをご家族にも紙面で報告している。○ミーティング時に話し合っている。○日々のケアの実践を個別の記録に記入し他の職員と共有しながら反映を生かせるよう努力している。必要なプランを考えて作成している。	
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○ 3ヶ月に1回は見直しを行い、変化をした場合の話し合いをしている。○ミーティングの場で変更や継続の必要性を話し合い、再度作成につなげ支援している。○必要に応じて、短期間で見直したり、プランを作成したりすることはある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○介護記録用紙にも、簡潔にプランが記入され、時間に合わせて計画ができるように記録している。毎日一人ずつ対応した記録を残している。○ミーティング時に話し合いをし、変更をしたり、その人に合わせたケアを行っている。○全てのスタッフが個別記録を記入する。情報がわかりやすいように色分けをしている。	○	○どうしても実践内容がメインの記録になりがちのため、今後は実践してして「気付いた事」「本人の発言」「表情」も記録できるようにしていく
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○緊急時の受診、家族の不調に合わせた受診など支援している。○家族の不幸にあわせ、通夜や葬式にお連れするなどの支援をしている。○入居施設だが、定期的に外泊することもできる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	○ボランティアの方に来ていただき、楽しんだり必要があれば警察等に助けを求めている。○ボランティアの方が歌を歌いに来てくれたりしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	○管理者が話しあい、支援している。○必要に応じて支援している。○他施設への移行時も相談にのったり、準備を家族と一緒にしたりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○推進会議に包括支援センターの職員が参加している。		○管理者は虐待防止推進会の構成員として会議にも参加している。○施設が抱える課題については、相談に適宜乗ってもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○入居時にかかりつけ医、今後の希望する医療を確認している。○家族の方と、今までのかかりつけ医に行かれたり、ホームにも週に1度は往診の医者が来ている。○個々にかかりつけ医があり、往診・受診と選択することができる		○ご家族の協力を得て、通院している利用者の生活、身体状況を用紙に記入し、医師へ報告し指示を仰いでいる。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	○現状では認知症について相談に乗ってもらえる近医はいない。○家族から依頼のあった際には、医療機関の紹介をしている。		○物忘れ外来などの利用は必要に応じておこなっている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	○わからないことは聞いたりしながら支援につなげている。○不明なことは、相談しながら支援している。○施設の看護師に相談している。○施設の看護師は非常勤だが、不在時にも必要に応じて電話などで指示を仰ぐことができる。		○往診に来る看護師との信頼関係もあり、わからないことや不安なことは相談に乗ってもらうことができる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	○入院するとすぐに、その病院のソーシャルワーカーへ情報を提供し、また、ご家族とも経過にあわせ連携している。○管理者は病院に出向き家族や病院と話し合いの機会を持っている		○協力医療機関のソーシャルワーカーやケースワーカーなどとは入院に併せて、こまめな話し合いの機会を持ち相談に乗ってもらっている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	○各ご家族の思いがあるため、マニュアル化は難しいが状態に合わせ、ご家族・かかりつけ医と話し合っている ○その都度、ご家族病院との話し合いをしている。	○	○その時により、支援できる体制が異なることと、支援体制の基盤が固まっていないこともあり、文章化はされていない。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	○かかりつけの病院や医師に相談に乗ってもらい、話し合いで決まったように対応をしている。○常に話し合いをしていく中で、安心して過してもらえようように支援している。○事業所の出来ることや出来ないことは明確化されているが、そのときのその他機関の協力体制によって異なる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	○日頃のアセスメントシートを次期施設にわたすなどしている。○家族にも協力を頂いて、寄せ書きなどを職員から送っている。○ご家族の協力も頂きながら、職員間でアセスメントを確認して支援している。○入居当初は特に細やかな配慮をし責任者への報告を行っている。		○入居前にはご家族からの聞き取りを細かくするように努めている。また、状況に応じて面会の頻度の話し合うこともある。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○言葉かけには気をつけている。○プライバシーの保護を徹底して他の情報が漏れないようにしている。○決められた場所への保管などを徹底している。○利用者には丁寧語を話すように指導を受けている	○	常に言葉かけには配慮をし、馴れ合いにならないようにしていく必要を感じる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○食事の内容を決めたり、利用者の言葉を引き出すよう働きかけている。○入居者の家ということを常に念頭に、入居者の暮らしやすい環境をともに作ることで、感情表出や意思の表明につながるよう働きかけている。○利用者本意の支援を心がけ、本人の納得の上で何事も行うようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○毎日、決まりはないがその日の状態によって散歩や歌等歌ってすごされるよう支援をしている。○利用者のペースに合わせて喜べる暮らしを支援している。○毎日過し方は違い、散歩をしたり買い物やされたり、昼寝をしたり様々で、おしゃべりをしながらゆっくりと過している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○ご家族と一緒に、美容院に行ったりはるすで切ったり(美容師の訪問がある)している。起床時、や入浴のたびに着る服を入居者と一緒に考えている。○好みの衣類を選んでもらったり、美容師さんに来てもらったり身内の方にも協力をしていただいている。○本人の望むように支援している	○	○外出時、(少し遠出したりする外出)には、普段着ではなくおしゃれして外出用の衣類と一緒に準備できると良い

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○冷蔵庫にあるもので料理するため、常に利用者と相談し、メニューを決め準備している。○好みのものを言って頂き献立を決めたり、出来る範囲で準備や片付けをしている。○自分で食べる喜びを見出せるよう努力している。○盛り付ける器にも配慮をして、配膳にも配慮をしている。○食事の準備が出来なくてもその場を共有して雰囲気を感じてもらおう。	○	○自分達の食事と言う意識を高める為に、もっと準備に入居者の方の関わりが必要だと感じている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○コーヒーや紅茶、ジュースなども嗜好に合わせて購入している。○好まれるものを提供できるように支援している。○買い物へ一緒にいって、購入したいものを選んでいいる。○食べ物の好き嫌いに応じて代替を準備する。個人の食材を冷蔵庫に保管することも出来る。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○介助の必要な人には1時間～2時間の間にトイレ誘導、排泄意に応じて介助しているため、日中はオムツ使用せず。○一人、ひとりのパターンに沿って排泄できるように支援している。○水分量や季節によりパターンが変わるため職員同士、声を掛け合い対応している。○個々の排泄パターンを把握して必要に応じて声を掛け合い支援につなげている。		○可能な人は入居後にリハパン使用から布パンツの使用へと働きかけていて、日中にリハパンをはいている入居者の方は殆どいない。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○午後から、自由に入れるよう準備がしてある。夕食後には、スタッフの関係もあり全員入れれない。(夕食後に)○毎日入られるように希望やタイミングに合わせは言っている。○一人ひとりに声をかけ希望に合わせて入浴できるように支援している。○毎日9人の入浴支援は出来ないが、足湯や清拭陰部洗浄をして、清潔麵にも配慮をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○今までの生活歴、現在の身体的状況をふまえて個別にプランで取り入れ支援している。○一人ひとりの生活習慣に応じて、気持ちよく眠れるように気を配っている。○随時、状況に応じ日中休んでいただいたり、日光浴をして夜間の安眠を心がけている。○寝具や室温など、訴えのない入居者に対してはその人のみになって考え、スタッフ間で話し合い支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○畑を手入れされたり、裁縫をしたり、チラシで物を作ってできる事をする事で喜びを味わっている。○一人ひとりの楽しみや役割を考え支援している。○喫茶店や外食、外出買い物に出かけている●カルテに資料があるが、全て生かしてはいない(家事、庭弄り、歌など) ○一日の中でその人とのかかわりの中で支援している。出来ることを一緒に見つける支援。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○外出時に支払いをお願いする。また、個人でお金を持っている方は自由に使えるように声をかけている。○その人に応じて、お金を所持し買い物に行かれる。○一人ひとりの希望に応じ支援している○個々のお小遣いを管理している。○本人が品物を選びお金を支払うように支援している。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	○散歩、買い物と出来るだけ出かけられるようにしている。○一人ひとり希望に応じて外へ出かけられるように支援している○外食、喫茶、買い物、散歩に出かける。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	○個人プランにあげ、なじみの場所(行ける範囲)へ外出している。○温泉、行楽地等に季節に合わせて出かけている○家族と単独での外出も多い○施設の外出は家族も誘っているが、参加はほとんどない。○全員が遠出の外出に参加できるように企画している	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○季節の折にご家族へはがきを出している。電話については、ご家族了解の方のみ本人からかけたりしている。○電話、手紙等、申し出に応じて支援している。○年賀状や暑中見舞い等は一緒に書いたり出したりしている。希望に応じて電話の使用もある。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	○常に気持ちのよいあいさつを心がけている。来客(ご家族の家族も含め)時には利用者と一緒にお茶を出している。○笑顔で挨拶、お茶の接待等し手居室など冷暖房させて頂いている。○いつでも気軽に訪問されている。○いつでも来ていただいている。○リビングや居室、好きな場所で家族と一緒にすごされている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○柵等しないようにはしているが、その人の落ちない範囲内で取り組んでいる。○勉強会で学んだ。ベッド柵をする中で現状身体拘束をしている為、職員がそのことに意識を持ち、理解をしながらケアをしている。	○ 安全性を一番に考えた上で、職員間で話し合い、身体拘束をしないケアを目指していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○玄関、窓、全て鍵をかけずに生活している。(夜間のみ鍵をかけている)○2階の踊り場には柵がしてある○1階、2階とも入り口にはセンサーがある。○全ての出入り口を開放している	○ ○現状では2階の柵が24時間閉めてある為、今後柵を空けることが出来る等に人の出入りには必ず確認をしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	○いつでも所在や様子を把握して手助けが出来るように配慮している。○リビングで入居者の方について話をする時には、控えめな声で回りに配慮をしている。○自立度が高い方の所在は常に職員同士が声をかけ、確認している。	○ ○日中の居室安静時や夜間にもこまめの巡回をしている
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	○いつでも声をかけていただくと手渡しして、切ったり、自分で管理できる方は居室に裁縫道具などを持っている。○職員間で取り組み、最善の柵を考え、対応をしている○見守ることで危険を防ぎ、一律に危険をのぞくようには支援していない	○
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○様々なマニュアルがある。また、ここにリスクが異なる為、プランにあげたりミーティングで話したり常に意識している。○どれをとっても事故が起きないようにその人に応じて横に寄り添い、誘導したり、誤薬がないように何度も確認し、玄関チャイムも気をつけている。○出社時にはひやりはっとに目を通し事故につながらないように心がけている。○一つ一つの事故に対して緊急対応のマニュアルを作成している。また、勉強会などで管理者から学んでいる。○ひやりはっとや事故報告を活かしている	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○吸引や連絡方法等、すぐに対応が出来るようにしている。 ○急変や事故発生時に申し送りをして職員全員で危険防止に取り組んでいる。 ○マニュアルの作成。 ●全ての職員が行えない現状がある。 ●定期的に練習を行えていない。	○	○職員間で声を掛け合い、訓練をし、どの職員でも速やかに対応が出来るようにする必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○定期的に避難訓練を行っている ○2、3ヶ月に1度、避難訓練を行い、災害用伝言ダイヤルの練習や連絡網を回す練習もしている	○	○推進会議を通して伝えている
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	○定期的に文章で連絡している。 ○随時、管理者が家族と話し合いをしている。そのことは職員へ申し送りがある		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○朝夕、バイタル測定し、体調の変化はないか気にかけて申し送りをしている。 ○体調の変化を記録し、早めの対応に心がけ職員全員で情報を共有している ○体調変化の発見に努め、申し送りし対応している ○普段との変化に気づいたときはバイタル測定を行い、その場のスタッフで話し合い対応をしている。 ○随時、管理者へ連絡している	○	●職員全員が速やかに対応できるようにしたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○個人全てに服薬用紙がファイルされている。 ○ない服の変更についても常に連絡帳及び申し送りで全員が把握できる状況を作っている。 ○薬が新しく増えたり、変わったりすると申し送られ変化に気をつけている。 ○決まった時間にその日の担当者が他の職員と確認をしながら行っている		○事故を起こさないように内服責任者を決め、ない服手順に沿って内服している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○個人のプランに排便コントロールを立案したり、申し送りで排便状況の確認をしている。食事内容も常に便通に効く材料を考えて作っている。○繊維質の多い食品や運動水分摂取に気をつけている。○便秘になることのリスクなどを学び、ご利用者さん一人ひとりの体への負担を考慮しながら運動や水分摂取を心がけている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○毎食後、自立した方には見守り声をかけ、介助する人には職員が施行している。チェック表もある。○毎食後口腔ケアを行っている。○義歯も毎食後取り外しブラシで洗い、口腔内も嗽をして清潔に保ち食後の汚れを取り除いている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○毎回食べた量、水分摂取量記録している。○1時間に1回は水分を進めている。○季節ごとに、管理者から意識づけるよう話が在る。○脱水になることがないように季節ごとに対応をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○フロアに入るガラスのドアの所に消毒液を設置し手洗い、嗽の協力をご家族にも理解していただき、スタッフも同様に施行している。○マスクをかけたり、トイレ手すり等消毒している。○外部からの侵入防止も心がけ、冬季はインフルエンザの予防接種も入居者職員ともども行っている。○必要に応じ、早期の居室対応もしている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○夜間に殺菌消毒し新鮮な食材を使い作り置きはしないようにしている。○衛生管理には気を配っている。○毎日1回はまな板、包丁、布巾を除菌している。○ほぼ毎日食材の買い物に出かけている	○	○うがい用のコップなど、台所用品以外に行き届いていないこともあり、こまめに消毒をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	○常に鍵が開いており、自由に出入り可能。「110番かけこみ」も門のところには貼り出している。季節毎の花、プランターも設置している。○車椅子でも通れるようにスロープにし手すりを使ったりして野菜や花等を見て楽しめるようにしている。○普段から玄関や門扉は開いている。○門にし説明の入った看板を作成している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○玄関先には、月毎の行司の案内を掲示している。廊下には入居者の顔写真やスタッフの写真が飾ってある。廊下が少し暗いので、常に電気をつけ、各部屋、トイレに行きやすいようにしている。○季節毎に置物を飾ったり、花を生けたり、家族と一緒に写真を飾ったり、工夫をしている。○空間を広く使っている。○廊下には椅子が置いてあったり、本棚が置いてあったりする。玄関やスロープにもベンチがあり休めるようになっている。○生活感があり、自宅のリビングのように音楽を流している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○座るような畳、3人がけソファ等が置いてあり、気の合った利用者同士で使用している。一人がけの肘掛椅子も置いてある。○そふぁ、テーブル、たたみ、ベンチなど配置し、好きな場所で過ごせるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○入居時になじみのあるものを持参し部屋で使用できるように説明しここが個性ある部屋になっている。○テレビや家族と一緒に撮った写真や飾り物を置いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	○24時間、換気施行。季節により強弱等も使い分けている。1日に何度も窓を開けている。○換気は季節により調節し、温度は寒がりの方もしているので外気温との差がないように保っている。○エアコン使用には基準の温度が設定されている。	○	○年に2回程度しか換気フィルターの掃除が出来ていないので、こまめに行っていきたい。○起床時には居室の換気を声かけしたり支援している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○廊下、トイレ等広く車椅子で入ることが出来、手すり等もついている○自立した生活ができるように工夫している○バリアフリー、手すりの設置、センサーライト、チャイムなどにより、安全な環境を整えている。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	○個々のわかる力に応じた個別の支援を行っている。アセスメントでも「出来ること」「できないこと」をいれ、出来そうなことも支援するように毎回話し合っている。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	○玄関先、建物の東側に野菜や花が植えてあり、利用者が水遣りを行ったり野菜を取りに行ったり自由に出来るように工夫してある。○洗濯物干しや野菜、花等を植え楽しんでいる	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目			
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	5 4	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	6 1 2	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	5 3 1	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	3 5 1	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 4 3 1	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	7 2	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	4 5	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	3 6	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	4 4 1	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 6	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	2 7	ほぼ全ての職員が 職員の 2 / 3 くらいが 職員の 1 / 3 くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	3 5 1	ほぼ全ての利用者が 利用者の 2 / 3 くらいが 利用者の 1 / 3 くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	6 1 2	ほぼ全ての家族等が 家族等の 2 / 3 くらいが 家族等の 1 / 3 くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○地域の行事に積極的に参加させてもらい、ご近所の方達との交流に力を入れている。(公園掃除、盆踊りなど)○ブログ(ご家族の承諾を得て)写真入で施行。ご家族からも好評。○週に2回、スクールガードへ出かけている。帰宅途中の子どもさん達への声かけ。○人として普通に暮らすことを支援の元とし、入居者にとっての非日常的なことが支援の中心にならないように働きかけている ○職員がある程度自由に希望休が取れる ○外食に行って楽しめる ○遠出(遠足、温泉)へ行っている ○近くにスーパーがあり、買い物にいつでもいける ○ご家族がよく来てくださる ○春から秋にかけて2ヶ月に1回バーベキューをしている ○12月には家族の方を招いて忘年会をしている ○明るい、優しいスタッフがたくさんいて、お家の2階には職員が作ったはるすのお家のポスターが掲示してある。 ○誕生日には手作りの誕生日会を行い、お祝いをしている。 ○運動会や盆踊りなどの地域行事に地域の方から声をかけてもらえる。 ○花壇で野菜や花を植えて楽しんでいる。 ○